

凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

工区割り

- 北1工区
- 北2工区
- 北3工区
- 北4工区
- 北5工区
- 南3工区
- 近代建築物活用ゾーン

施工区域

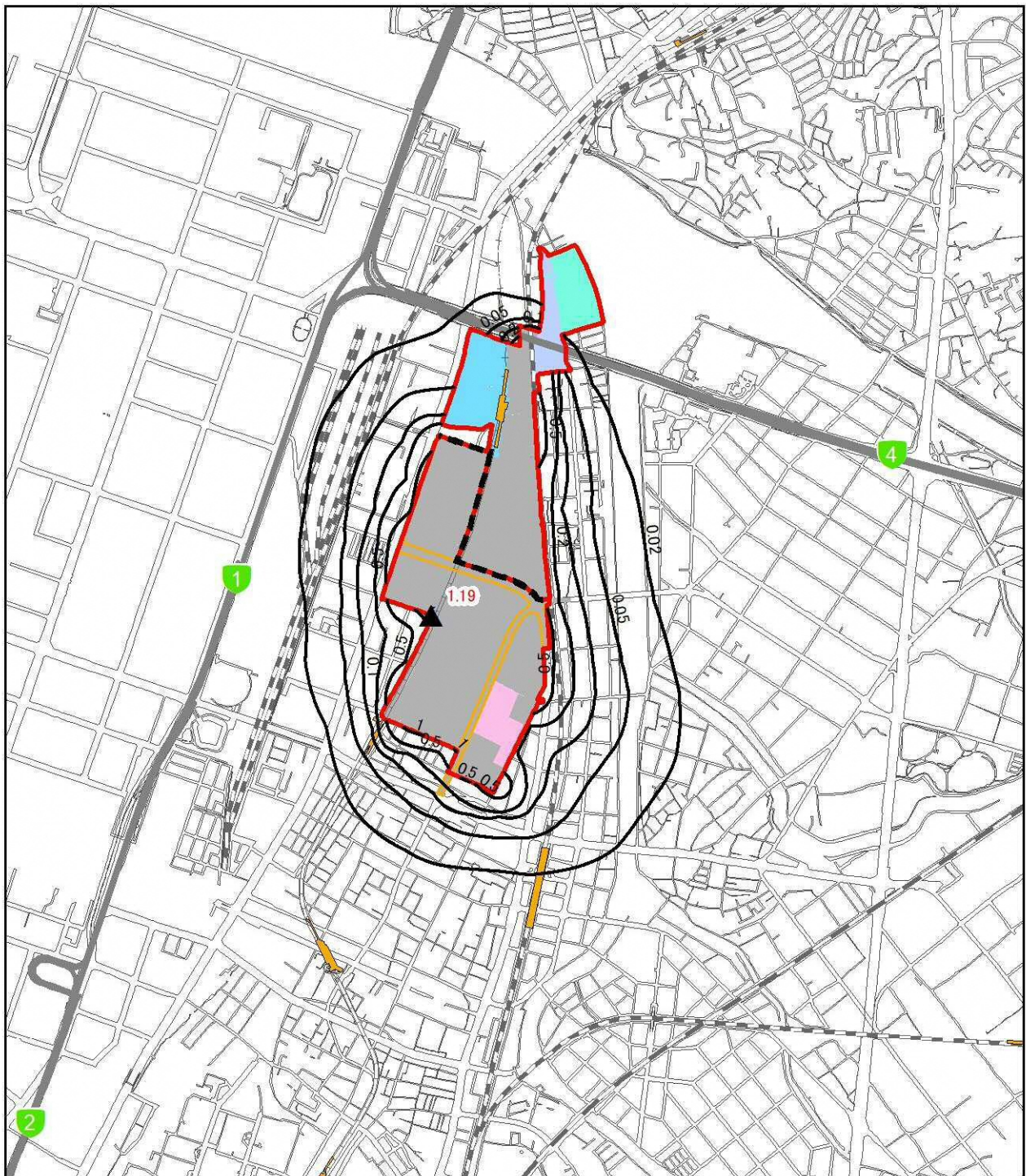
- 2021年度
- その他、北1~3工区、南1~3工区で関連事業実施中。

1:20,000



- ▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
- 2021年度二酸化窒素濃度(ppb)
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
(※1ppb=0.001ppm)
- バックグラウンド濃度は 15ppb=0.015ppm である。

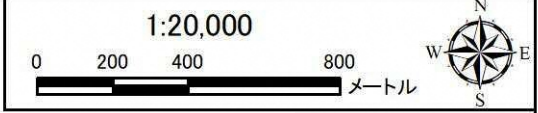
図 8.1-23 (2) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
(年平均値): 2021年度(環境保全措置実施後)



**凡 例**

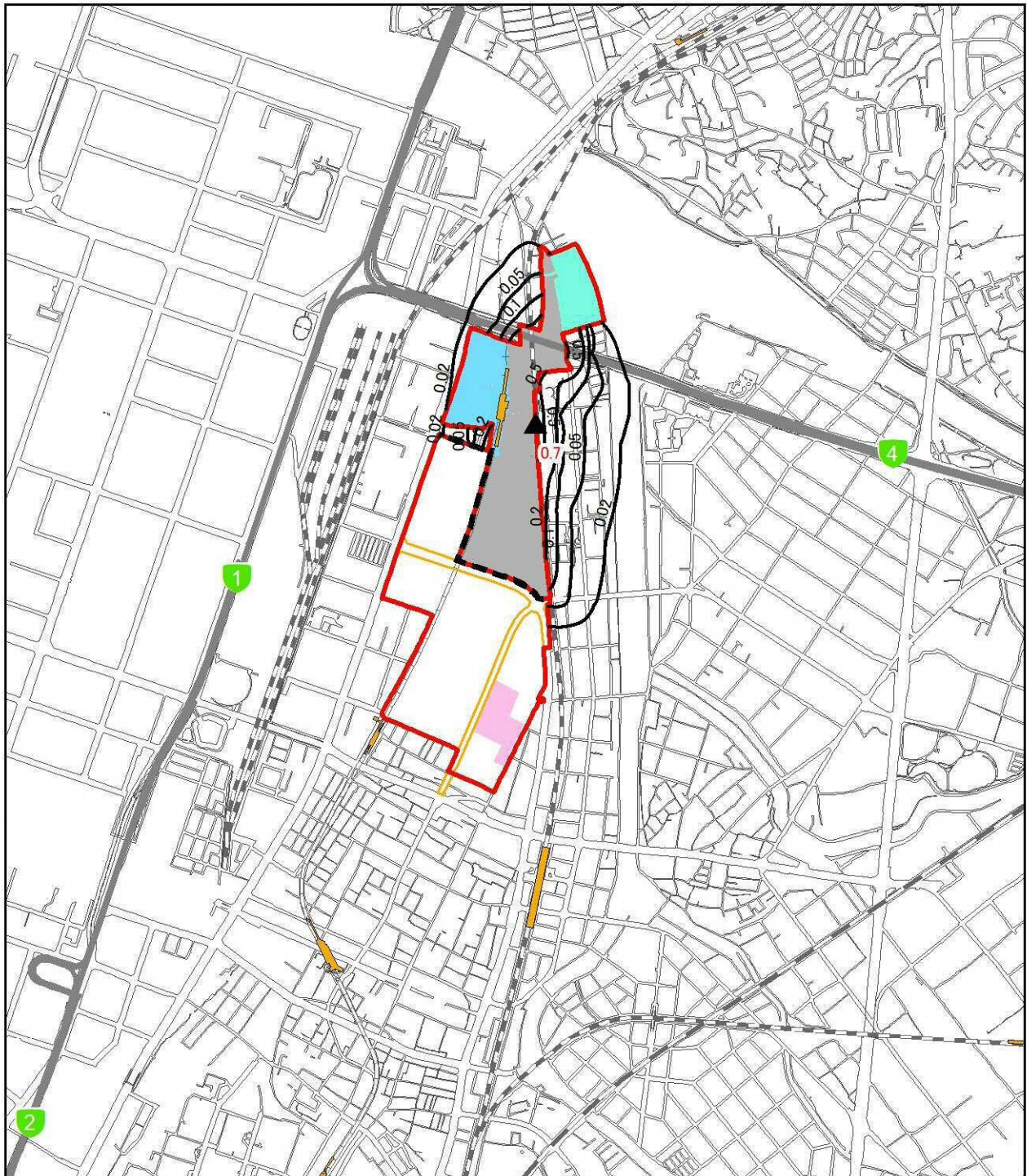
- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

- 工区割り**
- 北3工区
- 北4工区
- 北5工区
- 近代建築物活用ゾーン
- 施工区域**
- 2022年度
- その他、南1~3工区で関連事業実施中。



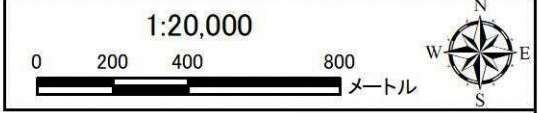
▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)  
 — 2022年度二酸化窒素濃度(ppb)  
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※1ppb=0.001ppm)  
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(3) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果(年平均値): 2022年度(環境保全措置実施後)



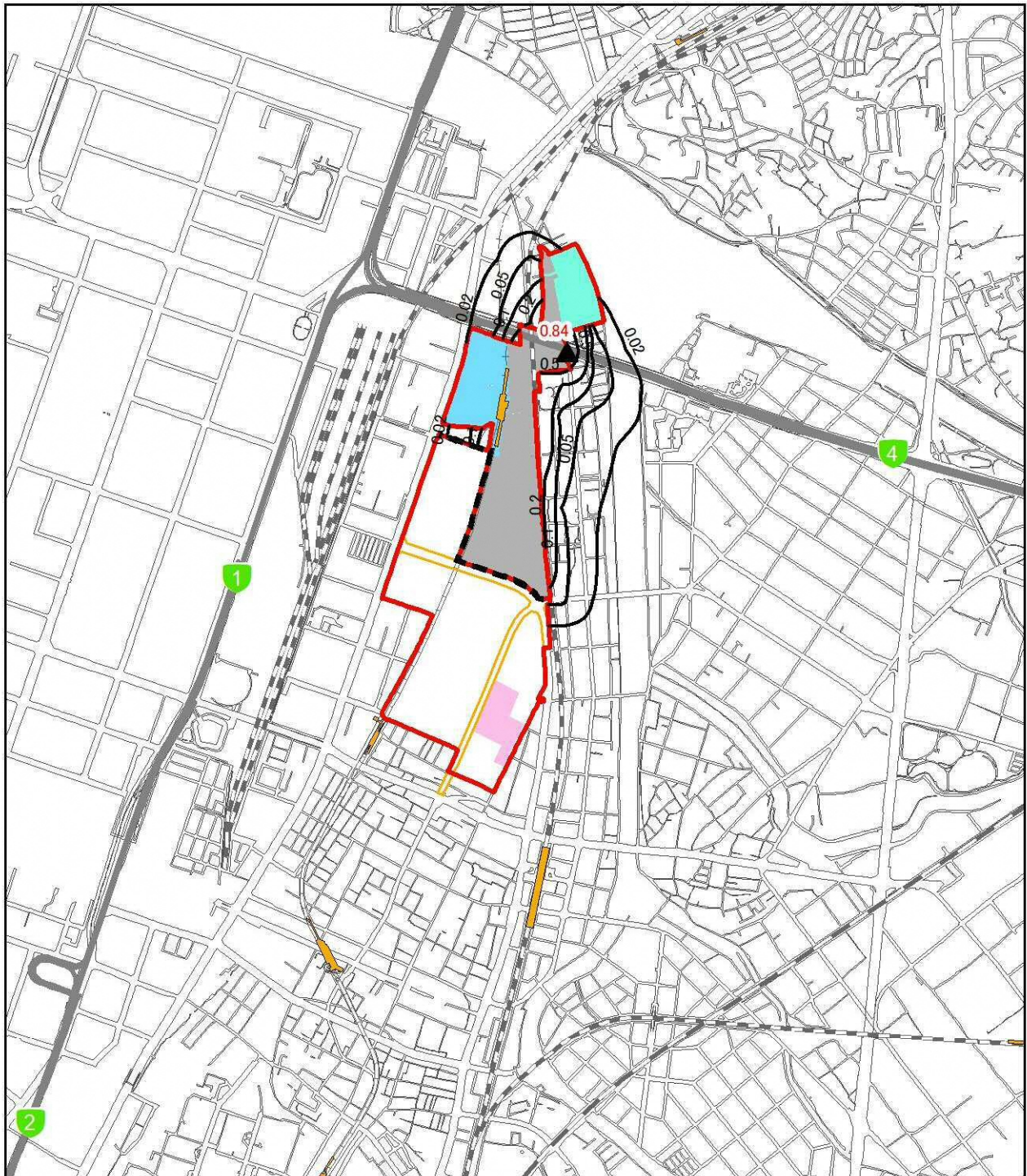
凡例

- |  |  |
|--|--|
| <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;"> </span> 事業実施区域                                     | <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 北4工区  |
| <span style="border-bottom: 2px dashed black; width: 20px; display: inline-block;"></span> 北エリア・南エリア境界 | <span style="background-color: lightcyan; border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 北5工区  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 福岡都市高速        | <span style="background-color: pink; border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 近代建築物活用ゾーン |
| <span style="border: 2px solid orange; padding: 2px;"> </span> 都市計画道路(関連事業)施工区域                        | <span style="background-color: gray; border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 2023年度     |
| <span style="background-color: orange; width: 10px; height: 10px; display: inline-block;"></span> 駅    |  |
| <span style="border-bottom: 2px dashed gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> JR           |  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 新幹線           |  |
| <span style="border-bottom: 2px dashed gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 私鉄           |  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 地下鉄           |  |



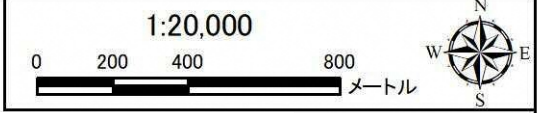
- ▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
  - 2023年度二酸化窒素濃度(ppb)
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※1ppb=0.001ppm)  
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(4) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
 (年平均値): 2023年度(環境保全措置実施後)



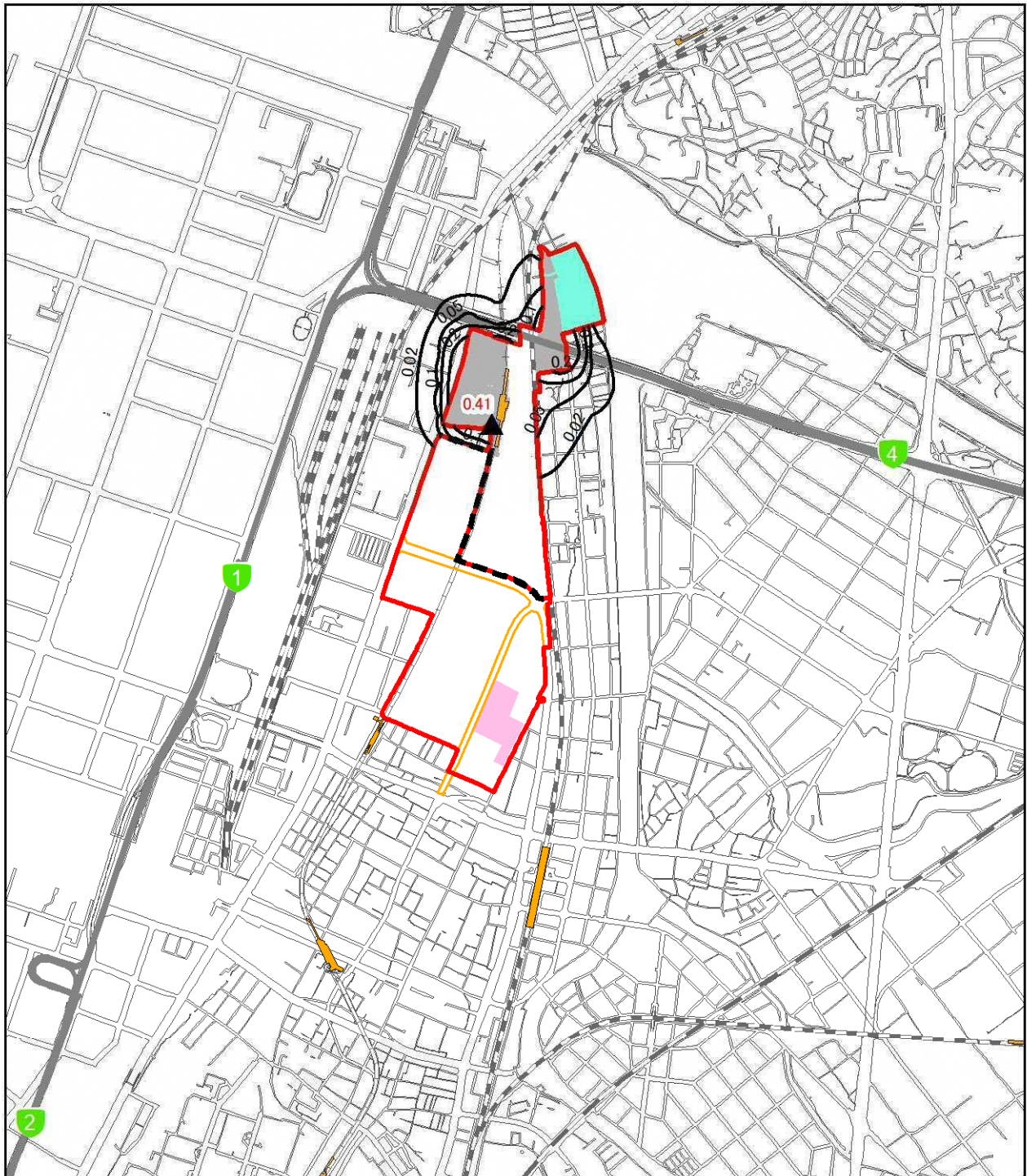
凡 例

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 事業実施区域           | 北4工区       |
| 北エリア・南エリア境界      | 北5工区       |
| 福岡都市高速           | 近代建築物活用ゾーン |
| 都市計画道路(関連事業)施工区域 | 2024年度     |
| 駅                |            |
| JR               |            |
| 新幹線              |            |
| 私鉄               |            |
| 地下鉄              |            |



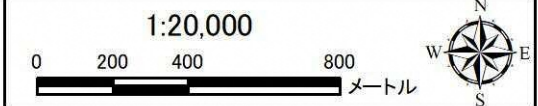
▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)  
 — 2024年度二酸化窒素濃度(ppb)  
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※1ppb=0.001ppm)  
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(5) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
 (年平均値): 2024年度(環境保全措置実施後)



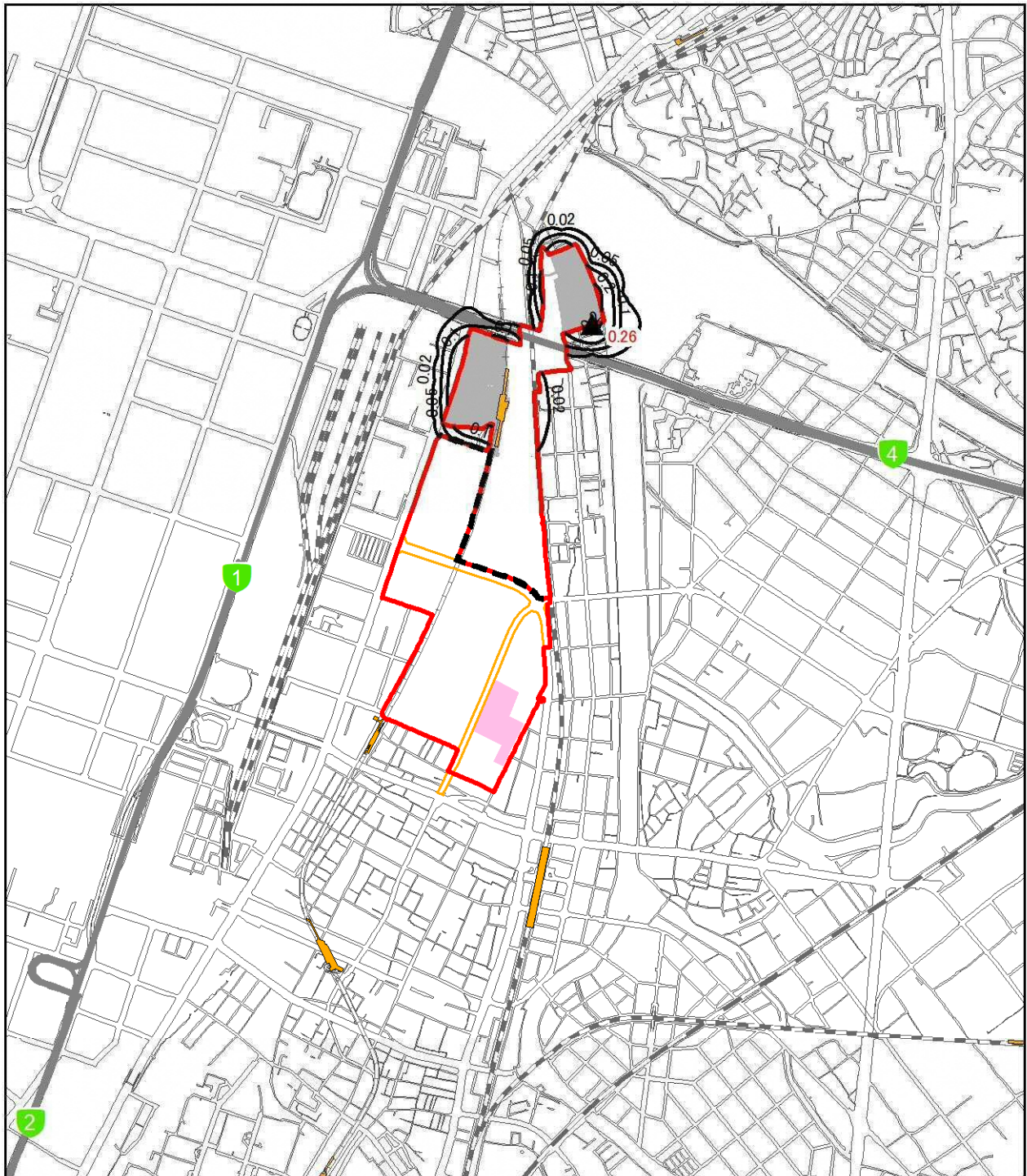
凡例

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 事業実施区域       | 工区割り<br>北5工区 |
| 北エリア・南エリア境界  | 近代建築物活用ゾーン   |
| 福岡都市高速       | 施工区域         |
| 都市計画道路(関連事業) | 2025年度       |
| 駅            |              |
| JR           |              |
| 新幹線          |              |
| 私鉄           |              |
| 地下鉄          |              |



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)  
 — 2025年度二酸化窒素濃度(ppb)  
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※1ppb=0.001ppm)  
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23 (6) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
 (年平均値): 2025年度(環境保全措置実施後)



凡 例

■ 事業実施区域

--- 北エリア・南エリア境界

— 福岡都市高速  
— 都市計画道路(関連事業)

■ 駅

— JR

— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

工区割り

■ 近代建築物活用ゾーン

■ 施工区域

■ 2026年度

1:20,000

0 200 400 800  
メートル



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)

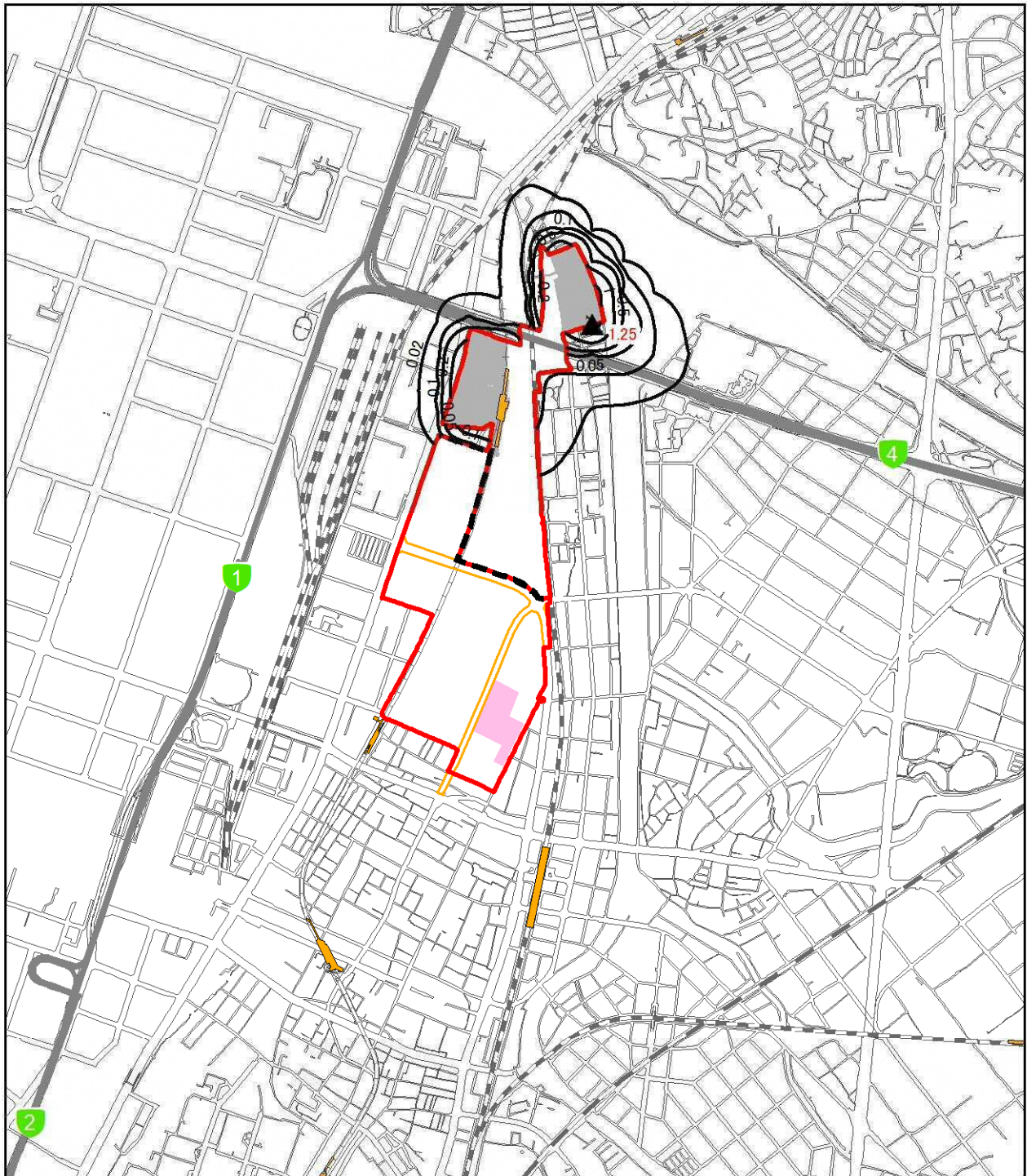
— 2026年度二酸化窒素濃度(ppb)

数値は、建設機械稼働分の濃度である。

(※1ppb=0.001ppm)

バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(7) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
(年平均値): 2026年度(環境保全措置実施後)



凡 例

■ 事業実施区域

■ 北エリア・南エリア境界

■ 福岡都市高速  
■ 都市計画道路(関連事業)

■ 駅

■ JR

■ 新幹線

■ 私鉄

■ 地下鉄

工区割り

■ 近代建築物活用ゾーン

■ 施工区域

■ 2027年度

1:20,000

0 200 400 800  
メートル



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)

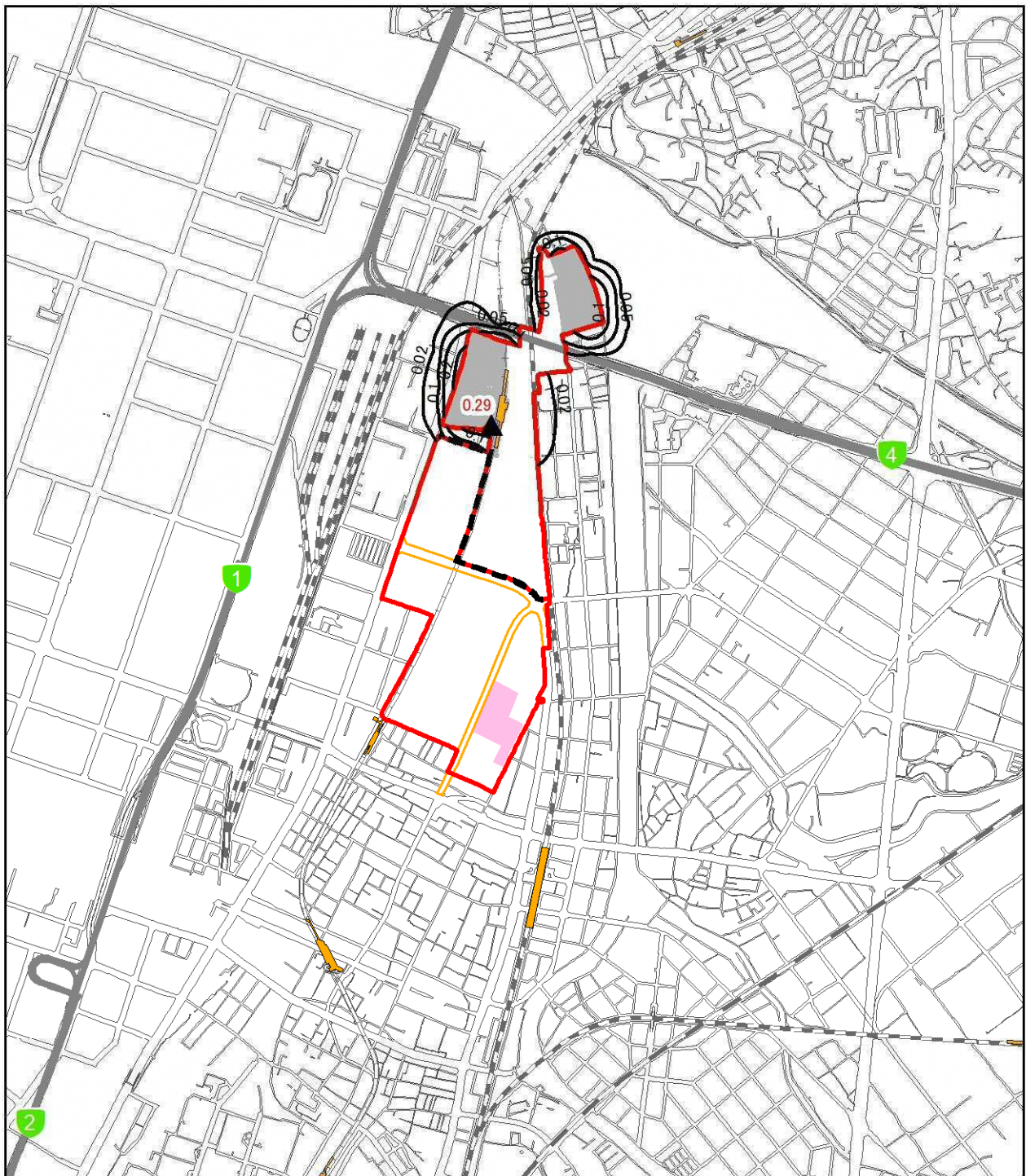
— 2027年度二酸化窒素濃度(ppb)

数値は、建設機械稼働分の濃度である。

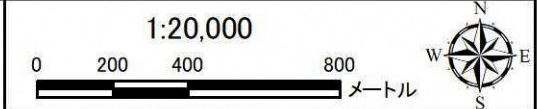
(※1ppb=0.001ppm)

バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(8) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
(年平均値): 2027年度(環境保全措置実施後)



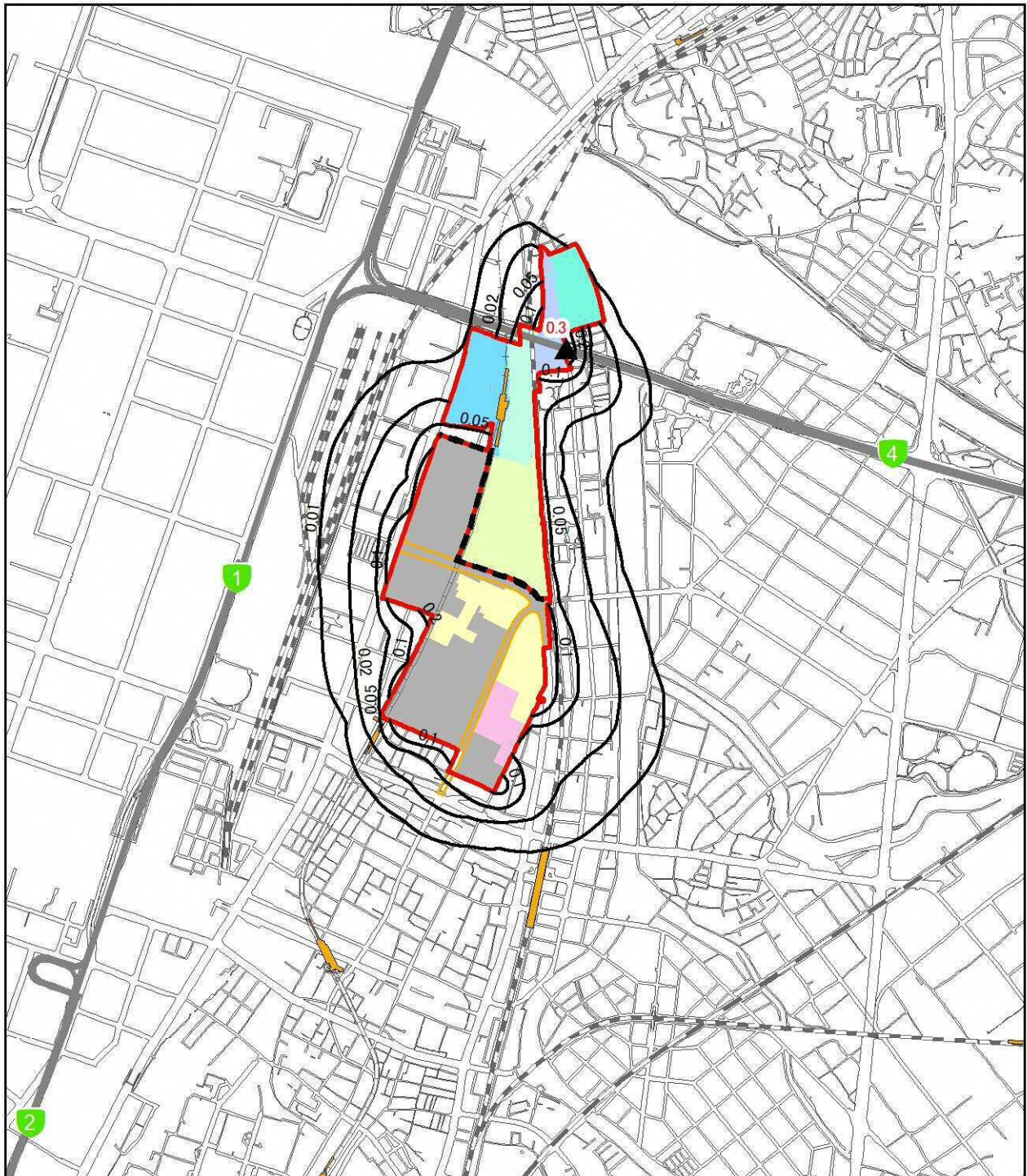
- |   |  |
|---|--|
| <b>凡 例</b>  | 工区割り   |
| <span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 事業実施区域   | <span style="background-color: pink; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 近代建築物活用ゾーン |
| <span style="border-bottom: 2px dashed black; width: 20px; display: inline-block;"></span> 北エリア・南エリア境界  | <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 施工区域      |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 福岡都市高速         | <span style="background-color: gray; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 2028年度     |
| <span style="border-bottom: 2px solid orange; width: 20px; display: inline-block;"></span> 都市計画道路(関連事業) |  |
| <span style="background-color: orange; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 駅     |  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> JR             |  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 新幹線            |  |
| <span style="border-bottom: 2px dashed gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 私鉄            |  |
| <span style="border-bottom: 2px solid gray; width: 20px; display: inline-block;"></span> 地下鉄            |  |



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)  
 — 2028年度二酸化窒素濃度(ppb)  
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※1ppb=0.001ppm)  
 バックグラウンド濃度は15ppb=0.015ppmである。

図 8.1-23(9) 工事の実施(造成工事の実施)による二酸化窒素の予測結果  
 (年平均値): 2028年度(環境保全措置実施後)





**凡 例**

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

**工区割り**

- 北1工区
- 北2工区
- 北3工区
- 北4工区
- 北5工区
- 南3工区
- 近代建築物活用ゾーン

**施工区域**

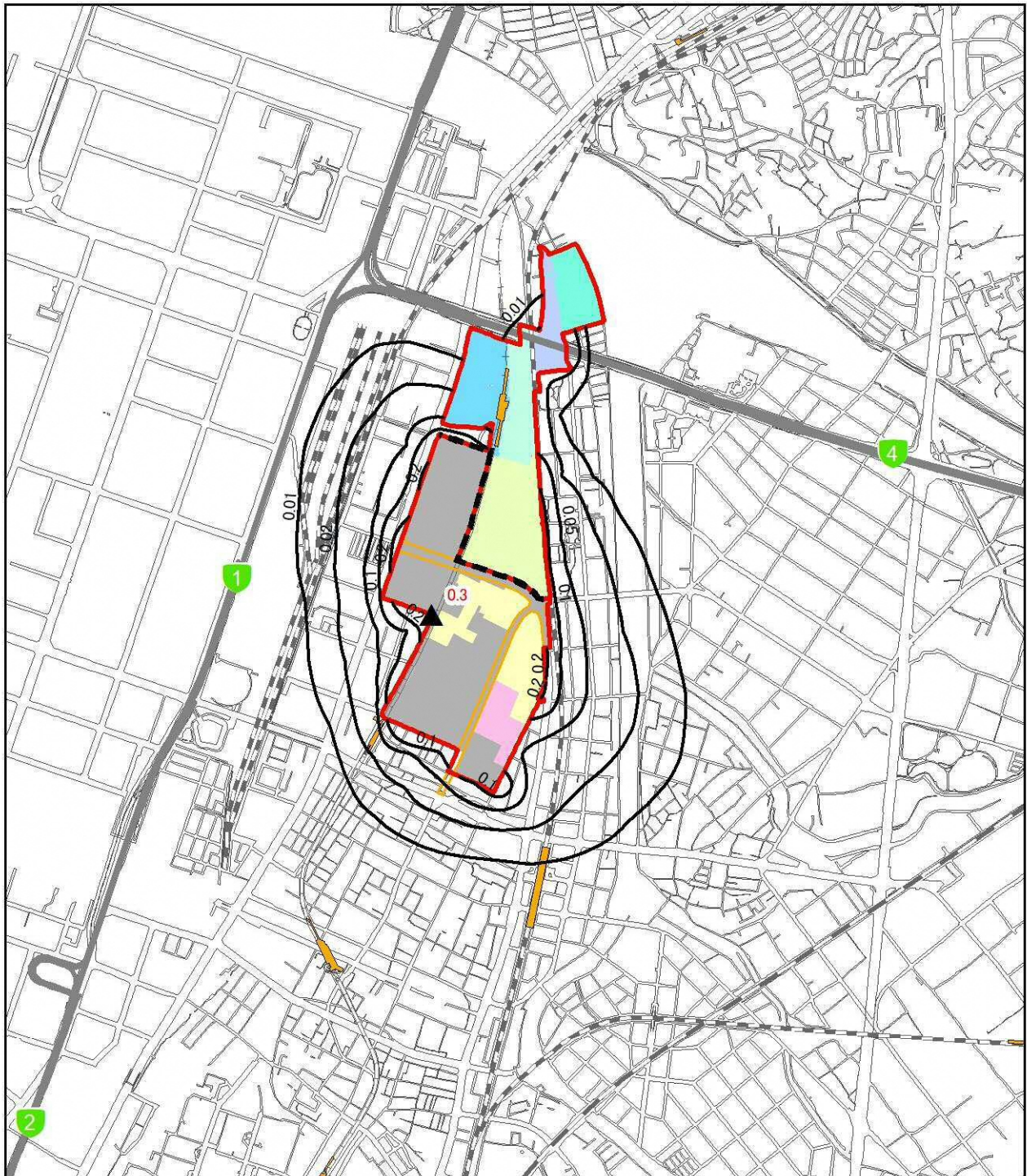
- 2020年度
- その他、北1~3工区、南1~3工区で関連事業実施中。

1:20,000



- ▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)
- 2020年度浮遊粒子状物質濃度( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
- 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
(※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$ )
- バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-23(10) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果  
(年平均値):2020年度(環境保全措置実施後)

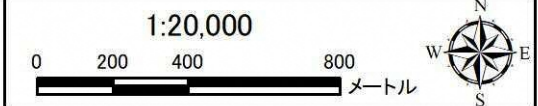


**凡 例**

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 都市計画道路(関連事業)
- 駅
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

- 工区割り**
- 北1工区
  - 北2工区
  - 北3工区
  - 北4工区
  - 北5工区
  - 南3工区
  - 近代建築物活用ゾーン

- 施工区域**
- 2021年度
  - その他、北1~3工区、南1~3工区で関連事業実施中。



▲ 最大着地濃度地点(赤数字:濃度)  
 — 2021年度浮遊粒子状物質濃度( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )  
 数値は、建設機械稼働分の濃度である。  
 (※ $1\mu\text{g}/\text{m}^3=0.001\text{mg}/\text{m}^3$ )  
 バックグラウンド濃度は $23\mu\text{g}/\text{m}^3=0.023\text{mg}/\text{m}^3$ である。

図 8.1-23(11) 工事の実施(造成工事の実施)による浮遊粒子状物質の予測結果  
 (年平均値):2021年度(環境保全措置実施後)